



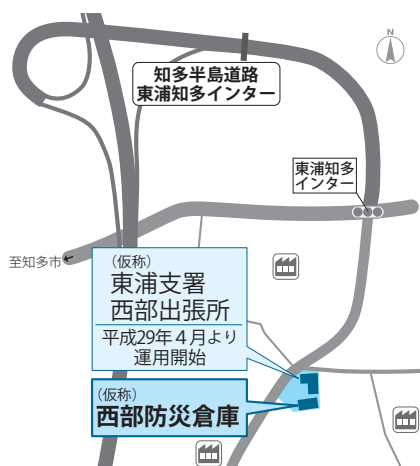
防災倉庫とは…

防災倉庫とは、大規模災害に備え、飲料水や食糧、毛布など避難生活に必要なものを保管する大型の倉庫です。町では、今後、3棟の防災倉庫を整備する予定です。また、避難所にある倉庫にも備蓄品が保管されています。

●問い合わせ 秘書広報課 内線223

Q なんで大型の防災倉庫を建てるの？

A 南海トラフ地震の発生時など大規模災害時には、多くの方が避難生活することが想定されており、①避難者用の飲料水や食糧などを保管する防災倉庫や②遠隔地などから届けられる救援物資の集積基地が必要となります。そのため、本町では、今年度①、②両機能を兼ね備えた(仮称)西部防災倉庫を(仮称)半田消防署東浦支署西部出張所の隣接地に整備します。



Q (仮称) 西部防災倉庫はどのように使われるの？

A (仮称) 西部防災倉庫には、緒川新田地区の避難者用として飲料水(1.5ℓ)5,400本、食料9,000食などのほか、毛布、簡易トイレ、紙オムツなどを備蓄する予定で、災害時には必要に応じて各避難所へ備蓄品を配布します。また、(仮称)西部防災倉庫は、遠隔地などから届けられる救援物資を集めて、整理する場所にもなります。

Q なんでこの場所にしたの？

A 次のメリットを考慮して、この場所に整備します。

知多半島道路 東浦知多インター近くに建設するメリット

知多半島道路は、広域の緊急輸送を担う道路に指定されているため、災害時に破損などした場合にも速やかに復旧すると考えられています。そのため、救援物資をいち早く輸送できる知多半島道路のIC近くに、集積基地の機能をもった「(仮称)西部防災倉庫」を整備することは防災対策として大きなメリットがあります。



(仮称) 西部出張所に隣接するメリット

双方の敷地を使って訓練などができます。

内陸部にあるメリット

液状化の可能性が低く、津波や浸水のおそれがないなど、被災リスクが低いことが挙げられます。

東浦町からのお願い

町では、(仮称)西部防災倉庫のほか、避難所の倉庫などで避難者用の飲料水や非常食を備蓄しており、災害時には配布を行います。しかし、災害時には、飲料水などが被災者やスムーズに行き届かないことも考えられるため、各家庭でも、3日以上(できれば7日分)の備蓄品(飲料水・食糧)の用意をしましょう。



防災マップで災害に備えよう

さまざまな災害において取るべき行動を例示した「東浦町防災マップ」は、防災交通課や各地区コミュニティセンターなどで配布または町ホームページで公開しています。防災マップを参考に、できることから始めていきましょう!



問い合わせ 防災交通課 内線235